

行番号	追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
233	イオン化の方法(列挙)、それらの特徴	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
233	イオン化の方法(列挙)、それらの特徴	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
233	イオン化の方法(列挙)、それらの特徴	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
233	イオン化の方法(列挙)、それらの特徴	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
234	ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
234	ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)	削除	大部分の薬剤師に關係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
234	ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
234	ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
234	ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
235	塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
235	塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴	削除	大部分の薬剤師に關係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
235	塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴	変更	ここだけ具体的な内容で1項目作られているので、他の部分と釣り合っていない。この内容を行番号234:「ピークの種類(基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク)」の中にかめる。
235	塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
235	塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
235	塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
235	塩素原子や臭素原子を含む化合物のマススペクトルの特徴	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
236	代表的なフラグメンテーション	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
236	代表的なフラグメンテーション	削除	大部分の薬剤師に關係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
236	代表的なフラグメンテーション	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
236	代表的なフラグメンテーション	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
236	代表的なフラグメンテーション	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
236	代表的なフラグメンテーション	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
237	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要

行番号	追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
237	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法	削除	大部分の薬剤師に關係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
237	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。
237	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
237	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
237	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
237	高分解能マススペクトルにおける分子式の決定法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	変更	基本的な化合物のマススペクトル解析
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	削除	大部分の薬剤師に關係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
238	基本的な化合物のマススペクトルを解析できる	削除	関連する情報量が極めて膨大であり、薬剤師の必須知識とすると、混乱が生じる可能性が考えられ、削除すべき
239	比旋光度	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
239	比旋光度測定法の概略	削除	大部分の薬剤師に關係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
239	比旋光度測定法の概略	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
239	比旋光度測定法の概略	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
239	比旋光度測定法の概略	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
240	実測値を用いて比旋光度を計算できる	変更	比旋光度の計算
240	実測値を用いて比旋光度を計算できる	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
240	実測値を用いて比旋光度を計算できる	削除	大部分の薬剤師に關係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
240	実測値を用いて比旋光度を計算できる	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
240	実測値を用いて比旋光度を計算できる	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
240	実測値を用いて比旋光度を計算できる	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の類別	意見及びその理由等
240		実測値を用いて比旋光度を計算できる	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
241		比旋光度と絶対配置の関係	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
241		比旋光度と絶対配置の関係	削除	大部分の薬剤師に関係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
241		比旋光度と絶対配置の関係	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
241		比旋光度と絶対配置の関係	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
241		比旋光度と絶対配置の関係	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
241		比旋光度と絶対配置の関係	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	分析方法はTDM等で用いられるクロマトグラフ以外は不要
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	大部分の薬剤師に関係のない項目が多数含まれ内容を削除もしくは修正すべきである。
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	医薬品には不斉炭素を含まないものが多く、ここまで詳細な事例については必要ない。
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	関連する情報量が極めて膨大であり、薬剤師の必須知識とすると、混乱が生じる可能性が考えられ、削除すべき
242		旋光分散と円二色性の概略	削除	内容が高度、専門的すぎるのではないか
243	総合演習	代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる	変更	基本的な化合物の構造決定
243		代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる	変更	一代表的な分析機器を用いて、...
243		代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
243		代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
243		代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
243		代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
243		代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる	削除	関連する情報量が極めて膨大であり、薬剤師の必須知識とすると、混乱が生じる可能性が考えられ、削除すべき

C5 ターゲット分子の合成

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の類別	意見及びその理由等
244	(1)官能基の導入・変換	アルケンの代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
244		アルケンの代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
244		アルケンの代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
244		アルケンの代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
244		アルケンの代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
244		アルケンの代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
244		アルケンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
244		アルケンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
245		アルケンの代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
245		アルケンの代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
245		アルケンの代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
245		アルケンの代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
245		アルケンの代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
245		アルケンの代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
245		アルケンの代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
245		アルケンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
245		アルケンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
246		有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
246		有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
246		有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
246		有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
246		有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
246		有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。

行番号	追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
246	有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
246	有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
246	有機ハロゲン化合物の代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
247	アルコールの代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
247	アルコールの代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
247	アルコールの代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
247	アルコールの代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
247	アルコールの代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
247	アルコールの代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても職能としても必要ではないと思う。
247	アルコールの代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
247	アルコールの代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
247	アルコールの代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
248	フェノールの代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
248	フェノールの代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
248	フェノールの代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
248	フェノールの代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
248	フェノールの代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
248	フェノールの代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても職能としても必要ではないと思う。
248	フェノールの代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
248	フェノールの代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
248	フェノールの代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
249	エーテルの代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
249	エーテルの代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
249	エーテルの代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。

行番号	追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
249	エーテルの代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
249	エーテルの代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
249	エーテルの代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても職能としても必要ではないと思う。
249	エーテルの代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
249	エーテルの代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
249	エーテルの代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても職能としても必要ではないと思う。
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
250	アルデヒドおよびケテンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても職能としても必要ではないと思う。
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
251	カルボン酸の代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
252		カルボン酸誘導体(エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物)の代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
253		アミンの代表的な合成法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
253		アミンの代表的な合成法	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
253		アミンの代表的な合成法	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
253		アミンの代表的な合成法	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
253		アミンの代表的な合成法	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
253		アミンの代表的な合成法	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
253		アミンの代表的な合成法	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
253		アミンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
253		アミンの代表的な合成法	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	変更	代表的な官能基選択的反応、その機構と応用例
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	内容が曖昧である。薬剤師の基本的な知識としては不要。
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
254		代表的な官能基選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	変更	代表的な官能基の他の官能基への変換
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	変更	応用問題として残るべきだと思います
255		代表的な官能基を他の官能基に変換できる	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
256	(2)複雑な化合物の合成	炭素骨格の構築法	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	変更	複雑な化合物の合成 「基本的な化合物の合成」複雑な化合物を薬剤師が合成する必要はないと思います。基本的な構造に限った方がよいと思います。
256		Diels-Alder反応の特徴(具体例)	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	変更	転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	基本的な反応を組み合わせた合成を理解することで十分と考える。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思ふ。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	共用試験において関連する基本的事項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	変更	代表例を絞り込む
257		転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法(列挙)	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思ふ。
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種類	意見及びその理由等
258		代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	追加	代表的な炭素-炭素結合反応の具体例に「アルドール付加」を追加する。 理由:有機化学の基礎として重要な学習項目である。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思ふ。
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
259		代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)	削除	薬剤師業務においては、C4「化学物質の性質と反応」の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
260		位置および立体選択性	変更	代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	CBTでの確認で十分だと思ふ。
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	変更	国家試験の出題範囲としては、あいまいな項目である。259行の代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)のように反応例の記載を要する
260		代表的な位置選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師業務においては、C4f化学物質の性質と反応の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	変更	代表的な立体選択的反応、その機構と応用例
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	変更	国家試験の出題範囲としては、あいまいな項目である。259行の代表的な炭素-炭素結合生成反応(アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など)のように反応例の記載を要する
261		代表的な立体選択的反応(列挙)、その機構と応用例	削除	薬剤師業務においては、C4f化学物質の性質と反応の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
262	保護基	官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	変更	官能基毎に代表的な保護基、その応用例
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。

行番号		追加・削除・変更を行う項目	意見の種別	意見及びその理由等
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	変更	アミン、アルコール、カルボニル位に限定するほうがよい。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	共用試験において関連する基本的条項が理解できていることを確認できているという前提があれば、出題範囲に加える必要はない。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	関連する情報量が極めて膨大であり、薬剤師の必須知識とすると、混乱が生じる可能性が考えられ、削除すべき
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	薬剤師業務においては、C4f化学物質の性質と反応の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。
262		官能基毎に代表的な保護基(列挙)、その応用例	削除	重複箇所あり
263		光学活性化合物	削除	合成法は臨床薬剤師に不要
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	これらの合成についての項目は全ての薬剤師が理解しておかなければいけない項目とは必ずしもいえないと考え削除とした。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	薬剤師の基本的な知識としては不要。合成法としては薬局方医薬品を中心に官能基変換と基本的な炭素-炭素結合反応を理解できればよい。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	CBTでの確認で十分だと思う。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	純粋な基礎薬学問題であれば不要。CBTでの評価でよい。ただし、これらの領域を応用・発展させた現実的な医療薬学に関する問題であれば、出題しても差し支えない。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	薬剤師にとって必要な知識と考えられる①薬物の構造活性相関②薬物の安定性(生体内と生体外)③薬物の物性(親水性、疎水性、pH、酸性度など)④薬物の分析技術を考慮した時に必要とは思われない。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	創薬研究者には不可欠な項目であるが、薬剤師にとっては基礎知識としても機能としても必要ではないと思う。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	薬剤師業務に必須の内容でなく、国家試験に出題するのは不適当
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	医療人として求められる資質には該当しない。CBT出題で考慮すべきで、国試には不要。
263		光学活性化合物を得るための代表的な手法(光学分割、不斉合成など)	削除	薬剤師業務においては、C4f化学物質の性質と反応の内容がしっかりと理解できれば十分と思う。